

2026年度 野球規則改正

I. 2025年 米国オフィシャル・ベースボール・ルールの改正に伴う規則改正

- (1) 5.02 (c) を次のように改める。
(2) (ii) を次のように改める。(下線部を改正)

規則書
23ページ

投手が打者に対して投球のためにボールが手から離れたとき、4人の内野手のうち、2人ずつは二塁ベースの両側に分かれて、両足を位置した側に置いていなければならない。

***全軟は適用しない**

II. 米国オフィシャル・ベースボール・ルールとの比較検討により再確認した項目の改正
(主にこれまで不記載としていた項目の追記および文章の修正)

- (2) 5.06 (c) (7) 【原注】の最終段落に次を追加する。

規則書
43ページ

野手が、走者をだます目的で意図的にボールをユニフォームの中(たとえばズボンのポケットなど)に隠した場合、審判員は「タイム」を宣告して、すべての走者に、そのような行為を行なった瞬間にすでに占有していたと審判員が判断した塁から少なくとも1個の塁を与える。

- (4) 5.07 (a) (2) を次のように改める。

- ③ 【原注】の最終段落に次を追加するとともに、【注6】、【注7】を追加する。

規則書
47ページ

ただし、打者が打席に入る前に、投手がwindアップポジションで投球する旨を審判員に伝えた場合には、前述のような投球姿勢であったとしても、windアップポジションとして投球することができる。

投手は、打者が打撃中であっても、(i)攻撃側チームにプレーヤーの交代があったとき、または(ii)走者の位置が変わったときは、次の投球を行なう前であれば、審判員にwindアップポジションで投球する旨を伝えることができる。

***打者席に入る前、その打者だけ**

【注6】windアップポジションとして投球する旨を審判員に伝えた後であっても、攻撃側チームのプレーヤーが交代したり、走者の位置が変われば、セットポジションに戻ることができる。

【注7】アマチュア野球では、セットポジションに戻すときも、審判員にセットポジションで投球する旨を伝えなければならない。

***戻す時に審判に伝えてない場合はペナルティは無し。セットポジションに戻してもバークを取らない(本年度は)**

(6) 5. 09 (b) (7) を次のように改める。

① 本文を次のように改める。(下線部を追加)

規則書
64ページ

走者が、1人の内野手の股間または側方を通過する前で、さらに他の内野手が守備する機会がない状態のフェアボールに、フェア地域で触れた場合。(5.06c6、6.01a11 参照)

この際はボールデッドとなり、打者が走者となったために次塁への進塁が許された走者のほかは、得点することも、進塁することも認められない。

インフィールドフライと宣告された打球が、内野手を通過する前で、さらに他のいずれの内野手も守備する機会がないと判断される前に塁から離れている走者に触れたときは、打者、走者ともにアウトになる。 ***文言の追加 走者アウト**

② 【注2】を次のように改め(下線部を改正)、【注3】を削除し、【注4】以下を繰り上げる。

塁に触れて反転したフェアボールに走者が触れた場合、フェア地域またはファウル地域に関係なく、その走者はアウトになり、ボールデッドとなる。

***地域に関係なく走者アウト**

(7) 【5. 10 0 原注】の第5段落として次を追加する。

***全軟は適用しない**

規則書
77ページ

監督またはコーチがマウンドに行った際、投手が他の守備位置に移ったかどうかに関係なく、そのイニングでその投手のもとへ1度行ったことになる。

(8) 6. 01 (a) (8) を次のように改める。(下線部を改正)

***文言の変更のみ**

規則書
89ページ

三塁または一塁のベースコーチが、走者に触れるか、またはつかんだりして、走者の三塁または一塁への帰塁、あるいはそれらの離塁をアシストしたと審判員が認めた場合。

(9) 6. 01 (h) 【付記】を次のように改め(下線部を改正)、末尾に【6.01h 原注】として「定義50オブストラクション【原注】」を移行する。

規則書
98ページ

***文言の変更のみ**

捕手はボールを持たないで、得点しようとしている走者の進路をふさぐ権利はない。塁線(ベースライン)は走者の走路であるから、捕手は、ボールを処理しようとしているときか、すでにボールを持っているときだけしか、塁線上に位置することができない。

III. その他、日本野球規則委員会で協議した項目の改正

(「プロ野球・プロフェッショナルリーグ」表現の削除、修正。【注】の追加、修正等)

(16) 4. 03 (e) に【注】を追加する。

規則書

【注】我が国では、天候状況によっては、30分を待つことなく試合を打ち切ること

(19) 5. 10 (g) (2) に【注】を追加する。

規則書

【注】我が国では、本項にある「イニングの初めに準備投球を行なった投手」を「イニングの初めに投手が、ファウルラインを越えてしまえば」と置きかえて適用する。

* 準備投球を行った投手

2026年 競技者必携改訂について（訂正版）

技術委員会

() は 2026年 競技者必携掲載頁

1. 投手の12秒及び20秒ルールの運用基準（9頁、10頁）

1. 12秒及び20秒ルール

投手は、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合には20秒以内に投球に関連する動作「投球動作」を開始しなければならない。 * 競技者必携のみ訂正
規則適用上の解釈(9)(69P参照)

※掲載内容の一部に表現の不備があったため、以下の通り訂正します。

誤) 「投球に関連する動作」 → 正) 「投球動作」 * 競技者必携のみ訂正

4. 20秒ルールの適用

C) ボールインプレイの状態、打者がバッタースボックス内で・・打者に面したとき。(削除)

* 投手が捕手や他の野手から返球されたボールを受け取った時から計測を開始に変更

2. 試合のスピード化・マナーに関する確認事項（15頁、16頁）

4) 打者

②打者はみだりに・・・(サインは必ず打者席内で見ること)。

アマチュア野球内規 ②バッタースボックスルール (88P参照) を理解し、これを実行すること。(追加)

④四球の走者が保護具(レグガード、エルボーガード、その他)を外すときには、本塁周辺で外し一塁へ向かうこと(ヒットバイピッチの時も同様とする)。(新規)

6. 学童部、少年部、女子大会における監督、コーチの年齢を20歳以上から18歳以上へ変更。(42頁)

7. 学童部(女子共)並びに少年部(女子共)の6監督がグラウンドに出て指示することができるという箇所を削除。(2025年43頁、48頁)

* 誰が行ってもOK(コーチも可能) 監督1回としてカウント

8. 学童部並びに少年部の投球数制限について (48 頁、49 頁、53 頁)

【学童部 (女子共)】

- ④ 1 週間の投球数は 210 球以内とする (4 年生以下は 180 球以内)。・・・(新規)

【少年部 (女子共)】

- ④ 1 週間の投球数は 350 球以内とする。なお、投球数のカウントは、該当期間中の試合における実際の投球数の累計によって行う。(追加)

【投球数管理運用】

- ③ 12 秒または 20 秒が経過し、タイムが宣告されたにもかかわらず、投球した場合は投球数に入れる。(新規)

9. 試合中の禁止事項 (57 頁、58 頁)

- 1 競技前、中、後を問わず、相手側プレーヤーや審判員に手をかけたり、暴言を吐いたり、侮辱する言動を厳禁する。(変更)
- 3 競技場内・・・〈中略〉ことを禁止する。また、喫煙可能な場所であっても、ユニフォームを着用しての喫煙は禁止とする。(新規) ***上着を着用して喫煙する (ズボンはそのままでOK)**
- 5 投手が手首や・・・〈中略〉。なお、負傷等の応急処置として、テーピングなどの使用を認めることがある。この場合、担当審判員の許可を得ることとする。但し、投球に影響を与えるものを直接ボールに触れる箇所には使用できない。(変更)

10. 試合のスピード化に関する事項 (59 頁、61 頁)

1 守備側のタイムの回数制限

- (1) 監督またはコーチ等が 1 試合に・・・〈中略〉。この際、投手 (内野手含む) にペットボトルやタオルを持参することができる。ただし、選手を帯同させることはできない。(追加) ***外野手もOK 但し他の選手を帯同は不可**

10 打者について

- (1) 打者は、アマチュア野球内規 ②バッタースボックスルール (88P) を理解し、これを実行すること。(新規)
- (3) 打者がたとえば判定に不服で、あるいは攻撃側のサイン交換が異常に長くて、球審の督促にもかかわらず、なかなかバッタースボックス内で打撃姿勢をとろうとしなかった場合、球審は投手に投球を命じることなく自動的にストライクを宣告する。この場合は・・・〈中略〉。(変更)

11. 用具・装具に関する事項 (64 頁)

- 7 アイブラック (アイパッチ) の使用を認める。(新規) ***投手もOK**

14. 質疑応答 (119 頁、123 頁、141 頁、171 頁) ***国際標準に合わせた改正**

62 答 走者をアウトにしようとして一連の動作で右投手が三塁 (左投手が一塁) へ振り向き、踏み出して送球することは正規の動きであるので差し支えない。(5.07a (1) 【原注 2】 ②)

78 答 windアップポジションでもセットポジションでも、投球に関連する動作投球動作を起こす前なら、投手板に触れたまま、走者のいる塁に送球しても差し支えない。(5.07a

(1) 【原注 2】 ②) 5.07d、6.02a(1)(4)

146 答 フェア地域またはファウル地域に関係なく走者はアウトになる。(5.09b(7) 【注 2】

***ベースにて反転したボールに触れた場合**

69 答 ポークではない。しかし、投手が自由な足を踏み出さずに、対面する塁へけん制球

を投げるとき、外した軸足が再び投手板につけばポークとなる。(5.07(a)(2) 【注 5】

***塁へ牽制時の軸足の位置**

15、正しい投球姿勢の徹底

4 セットポジションから投球する投手は、・・・〈中略〉。その保持に際しては、身体の前
面ならどこで保持してもよいが、同一打者のときは同じ位置でなければならない。ただ
し、打者によって止める位置を変えることは構わない。(追加)

***ボールの保持位置は同一打者のみ同じ位置とする**

20、投球姿勢（ハイブリッドポジション）及び申告に対するサインについて（新規）

塁に走者がいるときに、投手が投手板に軸足を並行に触れ、自由な足を投手板の前方に置
いた場合、その投球姿勢はセットポジションとみなされる。

ただし、打者が打席に入る前に、投手が「windアップで投球する」旨を審判員に申告
した場合は、前述の投球姿勢であったとしてもwindアップポジションとして投球するこ
とができる。(5.07(a)(2) ② 【原注】、【注 6】、【注 7】)

【球審のサイン】

① セットポジション → ハイブリッド姿勢によるwindアップポジションへの申告が
あった場合、球審は、「両手を身体前面で合わせ、頭頂部へ振りかぶる動作」をジェスチ
ャーで示す。

② ハイブリッド姿勢によるwindアップポジション → セットポジションへ戻す申告
があった場合、球審は、「両手を身体前面で合わせ、そのまま保持する姿勢」をジェスチ
ャーで示す。

※上記のジェスチャーが球審の基本サインであるが、必要に応じて言葉を添えて示しても
良い。

18. 試合の終了 (229 頁)

○宣告用語「礼」 ***試合の最後（最初も同じ）の用語**

○宣 告

②球審の合図により全員脱帽をして、相互に礼を交わす。